

学習内容報告書 フォーマット

学校名	神戸市立浜山小学校
授業者	兵庫漁協・大学教授・兵庫運河を美しくする会

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

新しい浅場「あつまれ生き物の浜」をしらべよう

1-2. 学年

1年～6年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

1・2年（生活科） 3・4・5・6年（総合的な学習）

1-4. 単元の概要

国土交通省と神戸市港湾局、地域、学校が連携して、本校前の兵庫運河に港湾整備に伴い解体された神戸港の防波堤から発生した砂や岩などの資材を再利用して、生き物の産卵や幼生の育成となる浅場（干潟）を造成することとなった。計画に際しては、本校児童の願いや思いも取り入れたものにしたこととなった。浅場は6月に工事を開始し、10月末に完成した。浅場に今後どのような生態系が生まれていくのか、国土交通省、神戸市港湾局、兵庫漁協、兵庫運河を美しくする会など、多くの関係機関が中心となって計画を立て、全児童に改めて兵庫運河について知ってもらおう学習の場を設定した。2学年ずつのグループに分け、3つの学習の場をローテーションをしながら学習する。3つの学習の場としては、①実際に浅場に行き、生き物調査をする。②大学の先生から干潟造成の目的と兵庫運河の役割を学ぶ。③神戸の漁業とこれからの夢を漁師さんから学ぶ。難しい内容については映像等を用いながら分かりやすく説明する工夫で、低学年から興味を持たせていきたい。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

地元の宝である兵庫運河と茅渚の海を守り育てる活動を、地元の漁協や企業等で組織する「兵庫運河を再生するプロジェクト」の一員として、教育活動の側面から学校も協働で取り組んでいく。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

命の学習として、人と環境や生き物同士のつながりを学んでいくことで、かけがえのない身近な自然や生き物と人々との繋がりを知り、自然や生き物を大切にすることを育て、自らそれらを守り育て未来へつなげていく子供たちを育成していく。

1-7. 単元の展開（全4時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 . 2 . 3 . 4	<p>低学年（1・2年） 中学年（3・4年） 高学年（5・6年）の3つのグループに分かれ、 下記の3つの場をローテーションしながら学習する。</p> <p>①完成した浅場での生き物調査 用意した網や水槽を小グループで利用しながら 生き物を見つける。また、砂浜の様子や砂の硬さ など、実際に体で感じながら浅場での生き物調査 を行う。</p> <p>②大学の先生から学ぶ 徳島大学の中西敦先生から、豊かな海とは、干潟と は何か。また、兵庫運河と海や生き物、新しくでき た干潟の役割、そして子供たちに未来に期待するこ とを近畿地方整備局神戸港湾事務所が作成したスラ イドを活用し、クイズを交えて学ぶ。</p> <p>③「漁師さんの願い：神戸の漁業とこれからの夢」 兵庫漁業協同組合水産研究会の糸谷さんから、「豊 かな海」について、体験から神戸の海の現状やその 状況を改善していく取り組み、また、その苦労など をお話ししていただくとともに、魚の命をいただく ことへの思い。魚をとるだけでなく、これからは、 海の命を育む漁師として願うことを聞かせていただ いた。</p>	<p>ライフジャケットの着脱、浅場への移動に 時間がかかることから、各動線を一方通行 として、スムーズに移動ができるようにした。</p> <p>①兵庫漁協の協力を得て、児童が分からない 生き物について質問に答えたり、取ってき た生き物の説明をしたりできるようにした。</p> <p>②低学年にも分かりやすいよう映像を使い、視 覚的に児童に伝えるような工夫がされているので、運河や海についての興味、理解へと 繋がっていく。</p> <p>③一番身近な兵庫漁協の方から実際に取り組 んでおられる活動を聞くことで、地域の方の 苦労や協力によって兵庫運河が美しくなっ てきていることを感じ取ってほしい。</p>

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

1 日の中での学習活動のため、以下は各学習時についての画像を掲載

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>①完成した浅場での生き物調査</p> <p>②大学の先生から学ぶ</p> <p>③「漁師さんの願い：神戸の漁業とこれからの夢」</p>	

3. 今回の活動の自己評価

- ・子供たちは、地域の自然や生き物と直接関わることで、生き物そのものを知り、育てる活動を通して、身近な自然や生き物に目を向けることができた。また、生き物には生もあるが死もある事を理解できたと感じる。
- ・地域の方々と一緒に行う体験活動を通して、地域の方々の様々な思いを感じることができ、地域の方々と触れ合い、地域のことをより深く知り考えることにつながった。
- ・校内でも、様々な自然や生き物と触れ合える機会をつくることで、自然や生き物に対する興味関心を高め、自然に関する知識や生き物の世話などの技能を高めるとともに、命の不思議さや神秘さにふれ、命は素晴らしく大切な掛け替えのないものであることを実感させることができた。

4. 今後の課題

- ・今年度は、コロナの影響で、予定していた活動が十分にできないこともあったが、昨年度末から取り組んできた「あつまれ生き物の浜」については、多くの方々が連携・協働して完成することができた。今後の活用については、国や市、地域との連携を今後も密にして取り組んでいく必要があるが、全国でも類を見ない環境学習の場でもあり、本校の特色として位置づけ、積極的にその活用と教育実践に取り組んでいきたい。
- ・今年度の取り組みを基に、兵庫運河での学習などを教育課程に組み込み地域学習として位置付けていく。また、兵庫運河での海洋学習をスムーズに実施できるように「浜っ子海洋学習ガイドブック」を作成できないかと考えている。学識者等からアドバイスをいただきたいと思う。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・新しい浅場については、「兵庫運河港湾再生材活用・干潟実証試験場」として普段は施錠をして管理されている。今後は近畿地方整備局や兵庫漁協とさらに連絡を取りながら、学習を進めていく。

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。

学習内容報告書 フォーマット

学校名	神戸市立浜山小学校
授業者	5年担任

6. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

6-1. 単元名

水産業のさかんな地域

6-2. 学年

5年

6-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

社会科

6-4. 単元の概要

はじめに、給食の献立表を用いて食生活を振り返ることで、わたしたちが普段多種多様な水産物を食べていることに気付かせる。さらに、世界の水産物の消費量を調べることで、日本は水産物の消費量が多い国であることに気付かせ、日本の漁場の様子への疑問を膨らませて学習をスタートしていく。資料を通して、日本は大陸棚が広がっていることや、近くの海に暖流と寒流が流れていることなどによって水産物に恵まれているということに気付き、「たくさんの魚がどのように獲られ、どこへ運ばれているのか」という漁の方法や漁港の様子に目を向けていく。

6-5. 単元設定の理由・ねらい

水産物が日本の食文化に欠かせないものであるということは、大単元導入で様々な資料を通して気付いている。しかし、なぜ日本の食文化が魚であるのかということや、どのようにして私たちの食卓に届けられているのかということまでは考えていない。資料を丁寧に調べる中で、自然環境と関わりながら懸命に水産業に携わる人々の工夫や努力に触れさせたい。そして、考えを深めていくことで水産業に携わる人々の工夫や努力のもとに私たちの食生活があるということにも目を向け、当たり前食べている食事の有難さを感じることのできる学習にしていきたい。

6-6. 育みたい資質や能力、態度

写真や様々な統計資料から調べることで、疑問を膨らませ、資料を読み直したり友達の意見を聞いたりすることで色々な視点から自分の考えをもち、話し合いができることを期待している。そして、我が国の水産業へ携わる人々の様々な努力や工夫に気付くことを通し、これからの自分自身の食生活や水産業について自分なりに考えようとする態度が育つことを期待している。

6-7. 単元の展開（全4時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	わたしたちの食生活と水産物	様々な種類の水産物を食べていることを想起させ、日本が世界の中でも水産物の消費が多い国であるということに気付く。
2	めぐまれた漁場	日本のまわりの海の様子を調べ、大陸だなの広がりや潮目とのかかわりから、日本の周辺はよい漁場に恵まれ、世界有数の水産国になっていることに気付く。
3	まきあみ漁のようす	漁には様々な漁法があることを知り、沖合漁業（まきあみ漁）について調べることで、漁業の仕事に携わる人々の苦労や努力についてとらえる。
4	銚子漁港のようす	銚子漁港のようすについて調べ、近海が潮目に囲まれていることや、様々な施設があることによつて水あげ量が日本一となっていることに気付く。
5	魚がわたしたちのもとへとどくまで	魚の輸送について調べ、消費者へ新鮮な魚を届けるためにたくさんの人が関わり、様々な工夫がされていることに気付く。
6	兵庫漁協での見学	実際の漁師さんの仕事の様子を見学し、これまで学習してきたことを確かめたり、実感したりする。（兵庫漁協と連携）
7	のりの養しよくに取り組む兵庫	養殖業の様子や資料から、わたしたちの食べる水産物が養殖業により支えられていることや、従事する人々の努力や工夫に気付く。
8	養殖業が抱える問題	養殖業が抱える問題について調べ、養殖業に従事する人々の努力や工夫に気付く。

7. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

7-1. 単元における位置づけ


単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

7-2. 本時の目標

須磨ののりの養殖について調べ、豊かで恵まれた環境を生かしながら、のり作りのために尽力する人々の工夫や努力に気付く。

7-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1. のりの養殖」の写真を見て、気付きや疑問を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・網がたくさん海に浮いているね。 ・ここはどこだろう。 ・一枚がとても大きくて長いよ。 ・網は誰かが引っ張っているのかな。 ・網目が広いけれど、魚を獲るためのものなのかな。 ・一体何をしているのかな。 	<p>○「のりの養殖」の写真を掲示し、気付きや疑問を引き出すようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真がのりの養殖であることを伝え、どんなことをしているのだろうという疑問を膨らませ次時へつなぐ。 <div style="text-align: center;">  </div>
<p>2. 須磨のりの養殖について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・須磨の海はのり作りに適しているんだね。 ・1年もかけて王職業をしているなんてすごいなあ。 ・寒い日に作業をするのは辛そうだね。 ・のりを干して病気にならないようにしているよ。 ・刈り取りは多いときは10回から15回も行っているよ。 ・育てるだけじゃなく、加工や検査など色々な作業があるね。 	<p>○一つ一つの作業や工程についておさえることで、時間や労力を費やしていることに気付けるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの作業の意味を考えさせることで、漁師の工夫や努力に目を向けていきたい。 ・作業だけでなく、働いている漁師の思いや願いにも目を向けていきたい。 ・兵庫県がのり類の収穫が全国二位であることを伝え、のりの養殖で大変なことは何かという疑問を膨らませ、次時へつなぐ。
<p>3. のりの養殖で大変なことは何かについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬に作業をすること。 ・たくさんの作業がある。 	<p>○資料を調べ直す時間をとることで、のりの養殖に尽力する人々の努力や工夫について考えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のりの養殖に携わる人々の努力や工夫に対し、児童が自分なりに考えたことや感じたことを認めてい

<ul style="list-style-type: none"> ・1年かけて育てても病気になってしまうとやりなおしになる。 ・環境の変化に左右されやすいから、環境が悪くなると大変。 ・ゴミのチェックや網を洗うなど海を守ること。 ・環境は人がすぐに変えられないから、そうした中でのりを作ることは大変。 	<p>く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のりの養殖だけでなく、全国で様々な養殖をしていることを知らせて、次時につなげる。
--	---

8. 今回の活動の自己評価

授業を始めたとき、普段から食卓に並んでいる水産物に興味をもっている児童が多くいた。今回、佐賀ののりではなく兵庫ののりの養殖に置き換えて授業を行ったことには意味があったと感じている。しかし、児童にとってより身近に感じさせるための手立て（資料や具体物など）が足りていなかった。



9. 今後の課題

どの児童も、教材を身近に感じ、興味や関心を同様に広げ、考えを深めていけるような学習を展開していけるようにしたいと強く感じた。そのためにも、どの児童でも「自分なりに」調べ、考えられるように資料の内容を精選することが必要であり、指導者の発問や切り返しなども大切だと感じた。

10. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

今回の学習にあたって、兵庫漁協の協力がとてもありがたかった。地域に水産業に携わる方々がいて、協力を頂けることは、

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm